

社会のニーズに応える 人材育成が大学に求められています。

Contents

- 学部長メッセージ……………2
- 特集「リケジョ座談会」……………4~7
- グローバル人材育成プログラム[Glo-BE]……………8~9
- 2014年度就職状況の概要……………10
- 学科ニュース……………11~15
- TOPICS「生産工学部学生ものづくりプロジェクト」……………15
- 連載 卒業生インタビュー……………16~17
日水製薬株式会社 代表取締役社長執行役員 小野徳哉氏
- TOPICS「日本大学生産工学部とミシシッピ州立
大学との教育・研究交流に関する覚書」を調印……………18
- 平成26年度 学位取得者……………18
- 「生産工学部創設60周年記念事業募金」寄付者ご芳名……………19
- 新任教員紹介……………20~21
- CAMPUS NEWS……………22
- 平成27年度後期行事予定表……………23



表紙：図書館



学部長
日本大学生産工学部
落合 実

現代は情報分野のデジタル技術が進み、国内はもとより地球規模で多種多様な情報が共有されるとともに、社会・経済の構造や活動が一つの国と国との関係からグローバルな関係に遷移しています。そして我が国民の高齢化と生産人口の減少が社会・経済の多方面に影響している状況の中、国が人材育成を成長戦略の重要な柱と位置づけました。その期に経済界からは理工系人材の育成を積極的に推進すべきであるとして、大学教育における国際的な質の保証、教育環境のグローバル化を挙げています。また文部科学省の教育再生実行委員会でも5つの大項目の一つに「グローバル化に対応した教育環境づくり」を挙げています。

一方、「日本再興戦略」改定(2014/6/24)の中では3つのアクションプランが掲げられ、その第一が「日本産業再興プラン」です。そこに示された重要事項で注目されるのは日本の若者を世界で活躍できる人材に育て上げるために「大学改革/グローバル化等に対応する人材力の強化」が位置づけられていることです。そして「科学技術イノベーションの推進/世界最高の知財立国」では3つの具体的施策の一つに「ロボットによる新たな産業革命の実現」としてあります。

また、文科省の「理工系人材育成戦略」(2015/3/13)の中では「教育機能のグローバル化」、「女性の理工系分野への進出の推進」そして「理工系人材育成一産学官円卓会議(仮称)の設置」などが注目されます。これらの注視すべきキーワードは「大学改革」、「グローバルに対応できる人材力」、「世界一の技術力」、「ロボットによる産業革命」そして「女性の理工系分野への進出」です。このような経済成長等への施策は世界を見据えたものであり、大学運営、特に教育・研究においてはこれらのキーワードを念頭にグローバルな視野での改革が求められています。

■グローバルに活躍できる生産技術者の育成。

「グローバルに活躍できる」というと「英語や英会話を勉強しなければならない」と考えて敬遠する学生もいます。英語や英会話は一つのコミュニケーションツールです。グローバル社会に対応できる技術者とは専門技術能力を持ち、全世界・地球的な視点で社会、経済、技術、環境そして文化などについて考えることができる人。加えてそれらを議論できる能力を持つ人と考えます。当然、日本の文化や歴史など日本人としての教養が必要です。

生産工学部の創設当時は国内生産を増大させるため、特に中小企業の生産技術力を高める必要があり、「経営管理能力を備えた技術者の育成」を教育目標としています。現在もこの目標は生産現場で有用です。一方で技術改革が進み、日本の生産技術は世界における先端技術という評価を受けており、この技術は世界に発信され、社会に貢献する時代となっています。加えて企業の多くが生産拠点を海外に移したり、海外に市場拡大させています。このようにグローバル化する生産現場では国内はもとより世界の社会や経済の動向を見据えて生産活動を監理(管理)できる人材が求められています。生産工学部においてもグローバル時代の要請に応えるために「世界で活躍できる経営管理能力を備えた技術者の育成」が必要となっています。

生産工学部ではグローバル社会に対応できる人材育成のために海外提携大学を中心に留学や留学生の受入れ、

英語研修、異文化交流そして海外生産実習などを推進しております。

本年度からはさらに発展させるべく施策を実施しています。その一つとして「Glo-BE(グローバルビジネスエンジニア)プログラム」を開始しました。このプログラムは学科の枠を超えた少人数で構成しており、世界で活躍する技術者として必要な基礎知識や課題解決手法などを学び、コミュニケーションツールとして英会話を身につけます。詳しくはHPをご覧ください。また、積極的に留学生を受入れるために留学生入学試験を10月に加えて3月にも行います。そして本年6月にはミシシッピ州立大学(米国)と提携校の協定を結びました。今後もグローバル社会に対応するための基本的な能力や気質を身につけるために提携校を中心に教育・研究を通じた交流の機会を増やしてまいります。

■日本唯一の「生産工学部」

生産工学部は1952年(昭和27年)工学部(現理工学部)に新設された「工業経営学科」を起源とし、1966年(昭和41年)に改組され、日本で唯一「生産」を冠とした工学部です。改組当時から生産実習などの生産工学系科目を設置し、時代と共に変化する社会の要請に応じて、特徴を持った教育・研究体制で生産技術者を育成しております。

さらなる発展のために「魅力あふれる大学づくり」を推進し、「生産工学部らしさの創造と実践」のために教職員が一丸となって教育・研究活動に取り組んでいます。昨年「女子学生の割合30%」、「受験生10000人」そして「グローバル化」を目標に教職員が施策を出し合い、実行しています。本号では「グローバル化」について述べさせていただきました。

生産工学部は学部の基盤である「教育力」、「研究力」、「就職力」、「組織力」そして「財政力」をより充実させると共に教職員と校友(卒業生)が協力して3つの目標のもと、日本で唯一の生産工学部としての「魅力あふれる大学づくり」を行っていく所存でございます。さらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

これから社会にはばたく女子学生が大学生活や将来の夢などについて語り合いました。

リケジョ — もちろん理系女子の短縮呼称だが、そうした言葉がもてはやされるのは、実はまだまだ「理系は男子」という意識が主流であることの証。女性の就業率アップが成長戦略の1つといわれる昨今、リケジョに対する期待は大きい、実際のところリケジョを取り巻く環境はどうか。それを当のリケジョ自身はどう感じているのか。日ごろの取り組みや将来の夢などとあわせて、生産工のリケジョ諸君に本音で語っていただいた。司会は、リケジョの大先輩、野呂知加子教授（男女共同参画委員会委員長：応用分子化学科）です。



<出席者（写真左から）> 榎田 茜・機械工学科4年 / 梶原 菜未・建築工学科4年 / 永谷 はるか・数理情報工学科4年 / 田中 久仁子・応用分子化学科4年 / 木下 静美・創生デザイン学科4年 / 司会：野呂 知加子・教授（男女共同参画委員会委員長）・応用分子化学科

◆実は女子にも居心地がいい生産工

野呂 今日5学科から女子学生の皆さんにお集まりいただきました。まず、皆さんが生産工学部を志望した理由を聞かせてください。

榎田 私はもともと飛行機が好きで、高校も機械科。大学進学を選択肢は機械工学科しかなかったという感じです。ものづくりをしたくて機械工学科に入りました。

野呂 いわゆる機械女子、ですね。

永谷 単純ですが関東に出たい（笑）というのがあったのと、高校が理系でITに興味がありましたので。数理情報工学科ならプログラミングも学べて、CGもかじれます。幅が広いかなと思いました。

田中 私が応用分子化学科に入った理由は、まず実験が好きだったこと。あとは白衣にそこがれがあって、ここに入れば白衣が着られるかなと（笑）。

木下 私も高校は理系で文系の科目が苦手だったこともあって、大学は理系に進もうと思っていました。でも、自分の中に理系ってちょっと堅いというイメージもあり、また、いろいろ収束するような発想ではなく、幅広い考えができる人間になりたいとも思っていましたので、デザインという分野に進もうと考えました。

野呂 創生デザイン学科は、芸術と理工系とが合わさったユニークな学科ですね。

梶原 私は、小学生のときに実家の建て替えがあって、住宅に興味を持ちました。そこで

建築工学科に入り、今、私は居住空間デザ

インコースに所属しています。ほかの大学でも居住学とか学べるころはあったと思いますが、生産工学部ということで、建築にもさまざまなコースがあって、住宅だけにこだわっていないところが、いろんなことが学べていいかなと。住宅に特化しているけれども、ほかのことも学べそうな環境を選びました。

野呂 居住空間というのは全部女子のクラスですよ。

梶原 そうです。一学年30人です。女子だけというと、怖い女子高みたいなイメージかな（笑）、と思っていたんですけど、アットホームなのでびっくりしました。

野呂 入る前に持っていたイメージと、実際に入って何か違いはありましたか。

榎田 大学という座学が多いというイメージがありましたが、機械工学科では実

習や実験がたくさんあって、実際に体を動かして学ぶことができます。そこが一番イメージと違っていたところですよ。

野呂 ものづくりの体験ができたわけですね。

木下 文系ってあまり学校に行かないようなイメージがあり、その点、理系は実験とかが多くて大変そう、ちょっと苦しくなるのかなと思っていました。で、実際大変でしたが、それを頑張ったことが今はいい思い出になっているので、やっぱり理系に来てよかったと思っています。

田中 私も理工系には堅いイメージを持っていましたが、入学してみたら自由な人が多いなって思いました。

野呂 それは学生さんのことですか。

田中 はい。全体的に自由で个性的で、勉強だけじゃなく、スポーツで頑張っている人や、いろんな人がいる。

梶原 学制的に、ほとんどが男子で、堅苦しいだろうなと想像してました。食堂とか、



梶原 菜未（かじわら なみ）
建築工学科4年 / 千葉県出身、千葉県立鎌ヶ谷高校卒：軽音楽サークル・大久保フォーク村で活動、3年生から一人暮らし「やりたいこと（仕事）をとことんやって、将来は家族で世界一周したい。」

文化祭なんか男子しかなくてみたいなの（笑）。高校のとき1回文化祭を見に来たことがあって、そのときも男子が多くて、「うわぁ」って思いました（笑）。でも、入ったら、男子が多くても楽しむことができたし、少ない女子を受け入れてくれる環境があったのはよかった、と思います。

野呂 数年前は学生の女子比率が10%ぐらいでしたが今は15%ぐらい。応用は女子学生が30%いますし、建築も創生も女子が多いですね。これからもう少し増えて全体で20～30%になるともっと居心地がよくなるかな（笑）。でも、男子とか女子とか意識しないで交わるところはいいですよ。

◆一人暮らしで自己管理能力がアップ

野呂 全員、一人暮らしを経験されているようですが、それも含め、これまで学生生活を送って、高校時代より成長したかな、と思ったことはありますか。

梶原 私は自由が欲しくて一人暮らしを始めました（笑）。その結果、自由なのはよかったんですけど、実家に帰ったときに黙っていてもご飯が出たり、今まで家事をしていた母って「すごいな」って、ただただ思ってた（笑）。

就職で来年から実家に帰るんですけど、親のありがたみというか、一人暮らしをして、それまで当たり前と思っていたことが当たり前じゃなかったことに気付けたのは、よかったと思います。

野呂 離れて知る親の恩、ということですか。

永谷 一人暮らしを始めたことで、高校までと違って、時間割とか自分で単位を決めたりという自由度が広がったというのがありますが、それと合わせて管理能力も必要になったということもあって、時間とかお金のこともそうですが、4年間を通して管理能力が高まったかなと感じます。

野呂 なるほど、自己管理ですね。サークルで遅くなくても、次の日の朝1限目があると、ちゃんと出なきゃいけないし（笑）。

木下 高校のときの学校のテーマが「自主創造」だったんです。こちらの大学も「自主創造」で（笑）。

野呂 付属じゃないのに同じなんですか。

木下 そうなんです。びっくりしました。で、自分自身、高校のときそのテーマに沿って行動できていたかという微妙でした。大学に来て一人暮らしを始め、それこそ自分の時間、スケジュールを管理して、サークルも副部長をやっていたので責任を感じるようになりましたし、やっとそのテーマに沿って行動できるようになり始めたと思います。

野呂 それは素晴らしい。確かに、自分で自分を律して行動しないと、世の中を渡っていくのは大変です。

ここでその予備のステップが踏めたのはよかったですね。

梶原 教室に張ってあるいろんなイベントや先生関係のチラシやポスターは、ある意味チャンスだと思います。いろんなチャンスが転がっているわけで、それを見つけて行動するというのが高校ではなかった。そういうチャンスが高校にはなかったということもありますが、大学ではそういうチャンスが多かったので自分で行ってみたい、実際に行動することが増えました。そこが昔



永谷 はるか（ながたに はるか）
数理情報工学科4年 / 和歌山県出身、和歌山県立桐蔭高校卒：軽音楽サークル・アメミン（アメリカ民謡研究会）で活動、入学時から一人暮らし「20代後半までに結婚し、子どもも産みたいが、仕事も続けたい。」

との違いかなと思います。野呂 なるほど、高校まではたぶん教科書の通りに教えてもらったと思いますが、大学に入ると、イベントも含めて自分で調べたり、自分で考えて行動することが増えるわけですね。

情報源というか、どういう方法で自分に役立つものをゲットしていますか。

永谷 学科事務室前にはあってあるポスターとか、あとは先生に薦めていただいたり、自分でも興味がある展覧会なども探すようにしています。ネットで。

野呂 東京に近いというのはいいかもしいですね。イベントはやっぱり東京が多いです。1時間弱はかかりますけど、何かイベントがあればすぐ行ける範囲内なのでそれは大きいですね。

木下 私自身は、2年生のころに、企画系を立ち上げるような団体に入り、週に1度は新宿あたりでほかの大学の人たちが集まって話し合い、いろんな情報を得ていました。実家のある山梨から来ることを考えれば3時間はかかります。ここからだと1時間ですから、ここで一人暮らししてよかったなと思います（笑）。



田中久仁子（たなか くにこ）
応用分子化学科4年 / 千葉県出身、私立志学館高等部卒：白衣姿にあこがれて本学へ、1年生から一人暮らし「30歳までに結婚し、子育てしたら仕事に復帰したい。」

野呂 自分から情報を取りに行くときは、距離は大きな問題ですから。もちろんネットで済ますこともできますが、体験するというのも大事で、それはその場に行かないとできませんね。

◆1年間卒研に没頭するのも貴重な体験

野呂 現在熱心に活動していることや打ち込んでいることはありますか。

梶原 今、アルバイトで建築写真家のアシスタントをしています。それもきっかけはポスターなんです。撮影の補助募集のポスターを見て、そこで知り合ったカメラマンに仲よくしていただいて、今アシスタントをしています。フォトショップを使った編集だったり、実際の撮影のときのアシスタント、物をどかしたりという、手伝いです。『ヴォーグ』とか『ブルータス』といった有名な雑誌の現場にも立ち会わせていただいているので、今はそれに集中して取り組んでいます。

野呂 そうですか。じゃあ、ついでに今日の写真も編集してもらって（笑）。

梶原 編集なら（笑）。みんなの顔を白く、美人に見えるように（笑）。

田中 私が集中して取り組んでいるのは、卒業研究です。野呂先生の研究室に所属しています。生物系の研究室で、今、細胞について研究しています。研究しているうちに、自分の知らなかったことに気付かされたり、より専門的なことを知ることができて、すごく楽しいです。

野呂 ありがとうございます（笑）。確かに、卒業研究のようなものは高校のときはあまりないですね。1年間ありますので、文系の人は週一ゼミとかですが、理系だと結構4年生の時間を取られますね。田中さんがいる応用は実験なんですけど、製作系はどうですか。何かつくるんですか。

木下 私の研究室では論文と製作、どっちも

やる形です。今は論文に軸を置いていますが、後半の10月ごろからは卒業になると思います。

野呂 確か、ユニークな作品集のようなものも出していますよね。建築は製作はするんですか。

梶原 研究室にもよります。住環境コースは2つ研究室があって、私の所属する研究室は論文中心の研究室で、もう一つのほう

野呂 数情はどうなっていますか。

永谷 数情は卒業研究になるので、今、私も毎日ではないんですが、研究室に通って先行研究の論文を読んでいます。

野呂 最終的にはプログラムをつくるんですか。

永谷 人によりますが、私の場合、プログラムをつくるのは過程で、最終的には楽曲検索システムというシステムをつくりたいと思っていますので、その先行研究の調査を、今やっています。

野呂 新しい、いいのをつくったら売れるかもしれませんね(笑)。機械工はどうするんですか。

梶原 実験をやって論文を書くという形で、同じですね。

野呂 ハードですか、毎日。

梶原 ほとんど研究室にこもりっきりで、ひたすら計画書を作って、実験して、の繰り返しです。

野呂 それはつらいですか、楽しいですか。

梶原 楽しいです(笑)。

野呂 それは結構です。これから大学院に行かずに就職するとしたら、そういう時代はもうないと思いますよ。何かを自分で企画して1年間やるということは、楽しんでください(笑)。

◆リケジョならではの夢

野呂 4年生ですから将来のことも考えていらっしゃると思います。将来の夢や、自分はどんな人になりたいとか、あったら教えてください。

梶原 リフォーム業界に就職が決まりました。就職活動は、リフォームという、古いものをよりよくするよな会社に入りたいと思っています。いろいろ探しました。私の夢は、その仕事を通してリフォームのよさをみんなに伝えていくことです。仕事には営業も入ってきますので、いろんな人に出会うと思います。そういう人たちの違いをちゃんと知ることとか、人の気持ちも一つではないと思いますので、いろんな価値観を理解できるような人間になりたいです。

野呂 私も自分の実家をリフォームしているんですけど、古いのを残しながら新しくするというのは楽しいです。今の担当の人は男性ですが、やっぱり女の設計者がいたほうがいいなと思うこともあります(笑)。

梶原 就職活動をしていて思いますが、私は技術職志望ですが、技術職の女性がすごく少なくて、機械のメーカーとかですと、女性が働く環境が整っていないところがま

こととか、人の気持ちも一つではないと思いますので、いろんな価値観を理解できるような人間になりたいです。

野呂 それはつらいですか、楽しいですか。

ただたくさんあります。私は技術職として社会に出て、これから女性技術職として入ってくる女性たちのさきがけになれるように一生懸命働いていきたいと思っています。

野呂 ぜひ、お願いします。秋に講演会を予定していますので、キャリアとして技術職で頑張っている方をお呼びしてお話を聞く機会がありますので、ぜひ、参加してください。見本というか、ロールモデルはすごく少ないと思いますが、そういうことを勉強しながら、自分の励みにしていただければと思います。あまり張り切りすぎてもつらいので、楽しみながらやってください。

永谷 就職活動が終わって、システムエンジニアの仕事に就きます。同じような話になりますが、システムエンジニアでも女性の管理職が少ないので、10年後、女性の私でもできるんだよということを確立したいです。また、趣味として軽音楽サークルに入っていますので続けていきたい。10年後にそれを両立できていることが夢ですね。

野呂 ワーク・ライフ・バランス。男性もそうですけど、女性は現状家庭のことを担う部分が多いので余計大変ですから。でも、楽しみでもありますね。

田中 私は公務員の技術職志望で、今は公務員試験に向けて勉強しています。そう決めたきっかけは、生産実習で千葉県の研究所に行ったことです。県の研究所では女性も活躍していました。委託実験といって企業から委託された研究をやっていたり、器具を貸してあげたり、そういう市民の手助けをする仕事もいろいろあると思います。公務員の技術職志望を決めました。

野呂 期待しています。

木下 私は、職業のスタイルとしては営業志望です。営業であらゆる人とかわることによって、その人と話を合わせることが

できる人間になる、その価値観を広げるような人になりたいと思って、まず営業を基本に置きたいと思っています。人間の将来像としては、広い知識を得て、人と話をしている「あ、それ知っている」と言えるような人になりたいです。そのために、自分の知識以外のことも知りたい。もっともっと知識を増やしたと思っています。

野呂 好奇心が旺盛なんですね(笑)。ある調査によると、女性のほうが男性よりコミュニケーション能力が高いという結果が出ていました。やっぱりお話ししたりするのは女性のほうが上手だと思うので、そういう特質を生かして頑張りたいと思います。

◆ものづくりを目指すなら生産工へ

野呂 リケジョを目指す後輩、女子高校生に何かメッセージがありましたら。

梶原 文系に行ったら、たぶん自分で開拓していく充実度があるのではないかと思います。理系に来たら、学校内で充実度がかなりあると思います。学校生活を充実させたい人には理系がおすすめです。そういう場合、生産工にはあります。

野呂 ちゃんとシステムが組みられていることですね。

木下 生産工は工房がすごい。機械も充実していますし、係員の方もとても丁寧に教えてくださいます。一人で来てどうしていいかわからないようなときに、すぐ来てくださって、そこでまた自分の知識が増えていくというのは、生産工ならではの良さです。

梶原 ものづくりが好きなお勧めの環境だと思います。機械工学科でも独自に持っている機械を使うことができますので、何かつくりたいという意思があったら、ぜひ来てほしいと思います。

永谷 生産工学部は、普通の工学部と違って、理系だけと理系の分野だけじゃなく、私の場合だとマネジメント学科の授業も取れたりして、幅がある、かなり自由度の高い大学だと思います。

田中 生産実習では、実際に社会に出て、社会の厳しさとか楽しさも学べるし、私は生産実習に行ったことで公務員の技術職とい

うやりたいことを見つけることができました。

野呂 一回社会に出てみて、体験するのは大きいですね。今、インターンシップがはやってますが、この大学は昔からこのインターンシップが必修だったんです。だから時代のさきがけみたいな感じだったと思いますよ。夏休みで遊びたいのにつらいとこ

ろはあるかもしれませんが、いい体験になると思います。

◆リケジョで得してる!!

野呂 今、リケジョにいい風が吹いていると思います。自分でもリケジョでよかったと思えることがありますか。

永谷 理系ですという、「あ、すごい」と言われます。イメージですけど、なんか得してるな、と思

木下 ほかの大学生との交流でいろんな人と話していると、文系の女の子だと感情的に話していることが多いのでフワッとした感じで(笑)。理系の子と話していると、ちゃんと筋が通っているし、ちゃんとした子だなという印象が出るので、人間としての感じは理系のほうが、自分は好きです。

野呂 企業でも論理的な人が欲しいからということで、リケジョがはやっているわけです。もちろん人によりますが、文系の子が悪いということではなくて、論理立てて考えとか、話すとかいうのは理系のほうが得意かなと思いますね。

梶原 やっていたことが明確なので、就活で言いやすいし、就職先も絞りやすい。熱心に取り組んでいることは?などという質問にも、ちょっと考えればすぐに答えられます。

野呂 そうですね。みんなパッパッと答えられるところはリケジョならではの良さです。

木下 ネーミングもいいですね。女子高生が「JK」とか言われるように、理系女子は「リケジョ」。文系の「ブケジョ」(笑)ってないじゃないですか。そういうネーミングの印象もいいと思います。

野呂 土木は「ドボジョ」。建築は「建築小町」とか言うんでしょう。

梶原 ええ、知らない(笑)。言いにくくないですか(笑)。



梶原 茜 (ますだ あかね)
機械工学科4年 / 茨城県出身、茨城県立土浦工業高校卒 / 津田沼航空研究会で鳥人間コンテストに参加、2年生から一人暮らし「結婚や子育ての前に、まずは一生懸命働きたい。」



木下 静美 (きのした しずみ)
創生デザイン学科4年 / 山梨県出身、山梨県立甲府昭和高校卒 / 軽音楽サークル・アメミンに所属、入学時から一人暮らし「景気がいいであろう東京オリンピックまでに結婚したい!」

梶原 就活で機械工という、それで顔を覚えられて次に行ったときに「あ、機械の子だね」と声をかけてくれる人もいますので、インパクトはあると思います。

木下 就活の説明会に行ったら女子は自分だけということがあって、印象に残ったろうなと手応えを感じました。そこは女子ならではのいいポイントだと思います。

野呂 確かに、リケジョは、今のところまだ希少動物(笑)ですから、目立っていいこともたくさんあると思います。「珍しいね」と言われなくなるのが一番いいんですけど、その途中では、私だけ輝いている!というのも大事かもしれません(笑)。だいたいいい時代になったと思いますので、皆さん方も、ぜひ社会で活躍してください。



【お話を終えて—野呂 知加子教授から】

安倍内閣のおかげもあって、企業もだいぶ女性の管理職を増やそう、女性が働きやすい環境を整えようという方向に向かっていきます。「もうちょっと働きなさい」と言われているようで嫌なところもありますが、環境的にはよくなっていくと思います。特に女性の技術職は少ないので、リケジョ活躍の場はもっともっと増えていくはず。皆さんの未来は明るいと思います。

かつて土木では、「山の神が怒るから」と、トンネルの中に女性は入れませんでした。でも、土木学会の女の先生たちが「今の時代にそんなことはおかしい」と掛け合って、少しずつ改善し、今の時代があるわけです。そんなふうには先駆けとなって努力した先人たちの思いを引き継いで、これから皆さんにも頑張っていていただきたいです。



グローバル人材育成プログラム

Glo-BE

【グロービー】

世界中のどこでも
たくましく活躍できる力を2年間で身につける、
日本大学 生産工学部だけのスペシャルプログラム。

今、教育のパラダイムシフトが進行しています。日本語における「教育」は、「教えて育てる/育む」と理解することができます。もちろん、知能の獲得には、豊富な知識・技術などの基礎能力を身につけて、それらの能力を応用する力（問題解決能力）が重要であると考えられます。しかしながら、日本では暗記を中心に、知識や技術などを教えることに偏重している感があります。一方、欧米における英語の「education」やフランス語の「éducation」などはラテン語の「ducere」（導く・つながる）に由来し、「人が持つ諸能力（潜在的能力も含む）が引き出されるよう導くこと」という意味があります。大学教育もその原点に立って点検・改善する必要があるのかも知れません。その際に重要となるのが、教育ビッグデータの活用やアクティブ・ラーニング（主体的学修）を促す授業形態などの導入ではないかと思われま

す。ところで、大学にとって3年後の平成30年（2018年）問題は叫ばれてから久しい。18歳人口の減少と50%前後の大学進学率の頭打ちにより、大学志願者及び進学者が減少する傾向になると言われています。このような状況において、文部科学省から平成24年6月に「大学改革実行プラン」～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～が策定され、多くの大学で教育及び学生支援に関する改革が進められています。この実行プランの施策として、大学教育の質的転換と大学入試、大学の質保証、及びグローバル化人材育成などが挙げられています。また、「大学教育再生加速プログラム」（文科省、平成26年4月）のテーマにも掲げられている、アクティブ・ラーニング、ラーニング・アウトカム（学修成果）の可視化、及び入試改革・高大接続といった大学教育の改革の方向性が示されています。

生産工学部では、このような社会的動向及び本学の国際交流方針を踏まえ、グローバル人材育成のための教育の充実を図るため、ビジネスエンジニアリングをグローバルな視点から見ることのできる技術者の養成を目的として、Glo-BE（グロービー）プログラムを本年度入学生から実施しました。世界中のどこでもたくましく活躍できる力を2年間で身につける、本学部だけの少数精鋭（全学科で50名）のスペシャルプログラムです。以下にその授業概要と期待される効果などを記載します。

<授業概要>

Glo-BE（グロービー）プログラムは、2つの授業科目で構成されています。正課扱いとするため、修得した単位は、生産工学部設置の教養科目及び基盤科目の相当科目で付与します。また「学科横断型プログラム」として全学科の学生を受講対象とし、学科の枠を超えて学べるようになっています。

■グローバル・ビジネスエンジニアリング

アクティブ・ラーニングを主眼にチームで課題を解決するなど、実践を多用したプロジェクト型演習です。海外で活躍する人のリアルな体験談を聞く機会や、グローバル企業への訪問調査を行います。希望者は、異文化体験として海外研修等を行うことも可能です。さらに、グローバル時代のビジネスパーソンとしての心構え、ビジネスマナーやビジネス思考を修得し、高いキャリア意識を身に付けることができます。

■英語コミュニケーション演習／英語インプット

英語コミュニケーション演習は、通常の授業では望めない少人数制（1クラス10名程度）で実施します。140年の歴史を持つ世界的な英会話のプロ、ベルリッツのネイティブ講師から実践英語を学びます。さらに、TOEIC®対策はカリスマ講師による特別講演も予定されています。

<期待される効果>

- 1 英語を使ってコミュニケーションすることへの抵抗感の低減と自信の醸成。
- 2 これからのグローバル社会で何が必要かを認識する意識付け。
- 3 工学を活かすグローバル教育。工学的発想による協働的課題解決能力の養成。

詳細は、本学部ホームページを参照してください。

http://www.cit.nihon-u.ac.jp/glo_be/

Glo-BE【グロービー】の流れ

1年次

日本のものづくりが、世界でどんな問題に直面しているのか？
どんな人材が求められているのか？
グローバル企業の事例を、グループ学習を通じて学びます。

グローバル・ビジネスエンジニアリング 1（週1回）

- ・グローバル化とはどのようなことなのかを理解できる
- ・プロジェクトマネジメントの基本を理解できる
- ・海外勤務経験者の体験談をきく
- ・これからの活動の素地をつくる
- ・チームでグローバル企業の課題に取り組む

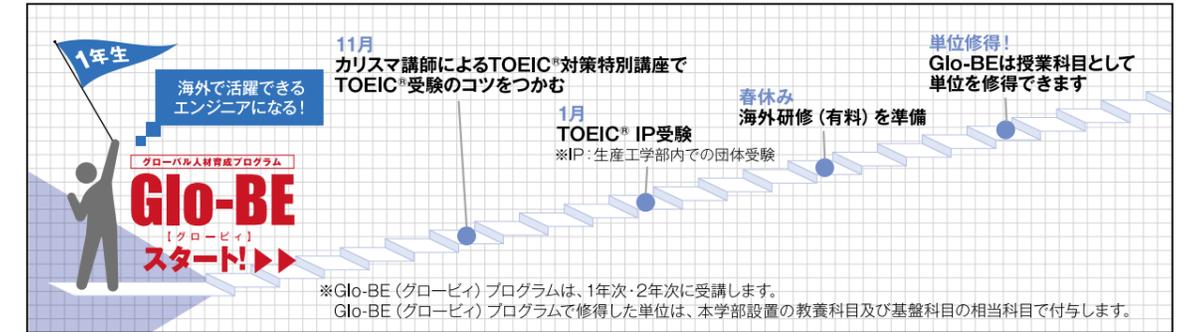
英語コミュニケーション演習【基礎1（週1回）】

- ・英会話を少人数（10人程度のクラス）で徹底的に行い、話す自信をつける

Berlitz ベルリッツの講師による英会話レッスンを実施！
TOEIC®のハイスコアを目指す！

英語インプット 1（eラーニング）

- ・TOEIC®対策の教材をeラーニングで学び、毎日少しずつ英語を学ぶ習慣をつける



2年次

これまで学んできた経営の視点を活用し、チームで協力しながら課題解決できる力を身につけます。

グローバル・ビジネスエンジニアリング

- ・グローバルバリューチェーンの基本を理解できる
- ・チームでグローバル企業の課題に取り組む
- ・マーケティングやコスト管理について学ぶ
- ・英語で生産工学的テーマの課題解決に取り組む

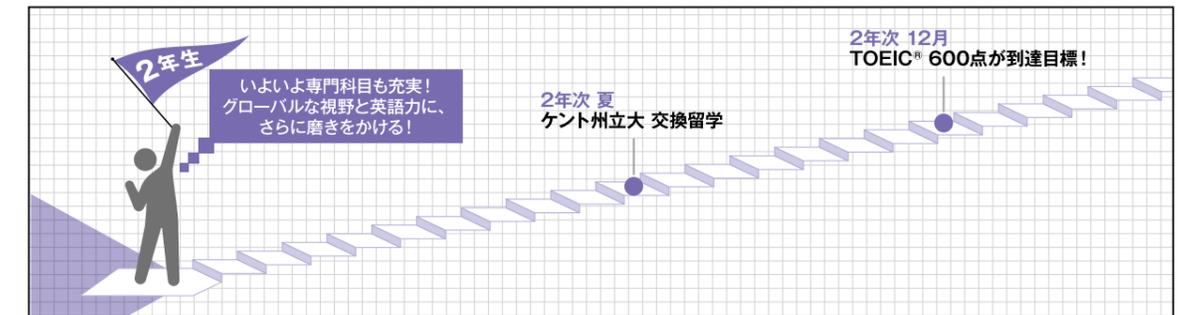
英語コミュニケーション演習【発展】

- ・英会話を少人数で徹底的に行い、話す自信をつける

Berlitz

英語インプットII（eラーニング）

- ・TOEIC®対策の教材を自宅で学び、実力をつける（予定）



3年次



4年次



2014年就職状況の概要

1. 2014年度の就職率

2014年度の生産工学部の就職率は97.9%でした。2015年5月付で厚生労働省と文部科学省から発表された2015年3月卒業の全国の大学卒業生の就職率は96.7%であり、そのうち理系の学生の就職率は97.2%でした。文系学生の就職率の上昇も相まって大学生の就職率は2007年の水準まで戻ってきており、就職氷河期と言われた時期を脱しつつあるようです。

生産工学部の就職率の推移を見ますと、この3年間で約7%も上昇しており全国の大学卒業生の就職率の伸び率を大幅に上回っていることが明らかとなりました(図1)。最近の景気動向など複数の社会的要因が各企業の採用意欲を活発化させていることが背景にあるとはいえ、この急激な伸び率には目を見張るものがあります。この理由はこれからの詳細な分析を待たなければなりません。現時点で考えられる理由の一つとして学生に対するキャリア教育と就職支援の効果が表れてきたものと考えています。これらの教育と支援は毎年改善が加えられ、内容が洗練され、かつ効果的に行われるようになってきました。就職支援の詳細は後述しますが、SPI試験対策など就職活動に直結する事項を優先的に支援することで効率の良い就職活動を行う体制が整っています。

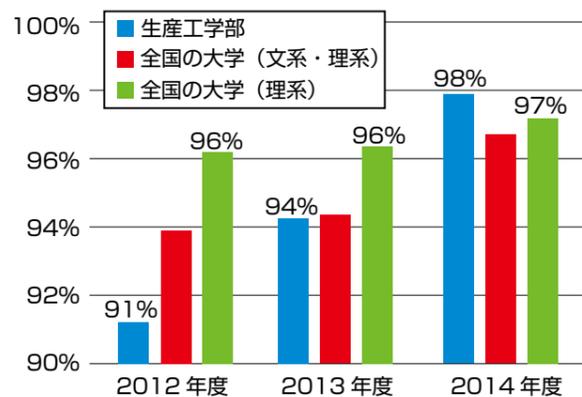


図1 全国の大学と生産工学部との就職率の比較

2. 保護者説明会(2015年3月実施)でのアンケート結果について

2015年3月に実施しました生産工学部主催の合同企業セミナーでは4日間で約400社の企業に参加していただきました。セミナーの初日には「就職に関する保護者説明会」を行いました。この説明会は昨年度で5回目となります。昨年度は144名の出席となり、一昨年よりも約100名多い保護者のご参加がありました。保護者の方の就職に対する関心が高くなったことを実感しました。就職採用活動の後ろ倒しにより3月から各企業の採用活動が一斉に開始され、3月初めにその様子がマスコミに大きく報じられたことも要因の一つと考えられます。その時に実施しました「保護者の方がご子息・ご息女に対してどのような就職先を希望しているか」についてのアンケート結果を表1に示します。保

表1 保護者説明会時のアンケート結果(抜粋)

保護者が希望するご子息・ご息女の就職先	割合(%)
経営が安定している	31.3
離職率が低い	17.4
休日・休暇が取れる	11.2
本人が選んだ就職先ならどこでも	10.9
研修制度が充実している	10.9
自宅から通勤できる	5.0
有名である	3.5
OB・OGが大勢いる	3.5
転職が少ない	3.2
海外での仕事ができる	1.8
残業が少ない	1.2

注) 割合はアンケート回収数(125名分)に対する割合

護者の多くは経営が安定している就職先を望んでいることが分かります。また、自由記入欄では125名中54名の保護者からのご意見をいただきました。その中でも「最新、かつ、より詳細な就職情報を知りたい」・「親から子への就職アドバイスについて知りたい」・「大学の就職支援の取り組みについて知りたい」・「もっと早い時期での就職に関する保護者説明会を実施してもらいたい」とのご意見を多くいただきました。これらの意見を踏まえて今年度から2015年9月(父母懇談会と同日実施予定)に保護者就職説明会を実施する予定です。

3. 生産工学部の就職支援

昨年度の就職支援の一部を紹介いたします。各学科の3年生・各専攻の大学院生を対象とした就職ガイダンスは9月中旬から10月上旬にかけて行われ、その後、10月中旬にSPI模擬試験を実施しました。この模擬試験は無料であり3年生と大学院生に受験を促しています。昨年度は全3年生1500名、大学院生316名に対して1130名が受験しました。大学院生はほぼ全員が受験しており、3年生の受験率も毎年増加傾向にあります。SPI試験(現在はSPI3試験)は公務員試験でも採用され始めている試験であり、性格と能力を把握するための適性検査です。企業によっては、「絞り込み」の材料や、「面接時の資料」として用いられています。11月中旬のSPIガイダンスを経てSPI模擬試験の結果による成績別クラス分けを行い12月と2015年2月の2回、同じ内容でSPI実践講座を実施しました。実践講座を受講した学生はSPI試験の点数が確実に上昇しており、採用試験において有利な状況で就職活動に臨んでいます。その他にもエントリーシート対策講座(12月実施)、面接対策講座(12月実施)、集団面接対策講座(2015年3月)などさまざまな取り組みを行い、就活学生の支援を積極的に行っています。

生産工学部では、今後も大学院も含めた就職支援活動を積極的に展開していきます。なお、就職に関してのご質問・ご要望は各学科の就職指導委員、または就職指導課にご連絡ください。

学科ニュース

機械工学科

学外オリエンテーションでマザー牧場と鴨川へ

今春、修士37名、学士159名が機械工学科を卒業され、就職率は修士97.3%、学士99.2%と非常に高く、新社会人としての活躍が期待されます。また、4月に入ると新しい1年生186名を機械工学科に迎え入れることができました。

さて、1年生は大学生活に慣れる間もなく、学外オリエンテーションでマザー牧場と鴨川へ行ってきました。マザー牧場では昼食にジンギスカンを食べたり、羊の毛刈りショーを観覧したり、都会から離れた自然の中で動物たちとふれあいました。また、宿泊地の鴨川では、機械工学科ウルトラクイズで学科のいろいろなことについてクイズ形式で学びました。1泊2日という短い間でしたが、これからの学生生活をともに頑張れる友人が出来たことでしょうか。2年生は、講義に占める専門教育科目の割合が増え、機械工学の基礎知識や設計のための製図等を学んでいます。とくに、2年次ゼミでは、プレゼンテーション力の養成や各教員による研究紹介が行われ、徐々にエンジニアとしての考え方やモノの捉え方が養われるとともに、コース配属に向けて自分の将来について具体的に考える時期が来ています。3年生は、プロジェク



ト・ベースド・ラーニングとして、今年は電動カートおよび風力発電装置の製作を1年間にわたって行います。また、夏休みに行われる生産実習(インターンシップ)の準備を進めており、夏休みが明けたころには実社会での就業体験によってエンジニアの卵として成長していることでしょうか。

最後に、4年生は毎日研究室にて卒業研究に勤しんでいます。その他、機械工学科のホームページ(<http://www.me.cit.nihon-u.ac.jp/>)にてさまざまなニュースが紹介されていますので、ご興味のある方はそちらもご覧ください。

電気電子工学科

JABEEコースを修了し希望の会社に就職

平成27年3月にJABEEコースを修了し卒業した、滋田康平さんに近況を報告して頂きました。

「多くの人を喜ばせる物作りの仕事がしたいと考えていた。子供の頃、図工が好きで、よく作ったものを人に見せていた。その際に、将来は何か物を作って、人の役に立つような仕事がしたいと思った。

JABEEを知るきっかけとなったのは、高校の担任との面談である。大学選びに迷っていた時、日本大学生産工学部にはJABEE認定コースがあるということを知っていただいた。そのコースでは、電気電子工学の中核となる技術を深く学習し、技術士として国際的に活躍できる技術者の育成を目指している。そのため、ここで多くの知識と技術を学び、将来のために活かしたいと考えた。実際に入ってみると、多くの必修科目の取得、学習日誌の記入と忙しかった。しかし、今考えると、ここでやってきたことは、会社に入っても必要なことであると感じる。会社であれば日報を書き、業務に必要なことを学習していかなければならないからだ。そのため、こ

こでやってきたことは、会社に入ってからでも活かしていけるのではないかと感じている。



就職活動では、自分が具体的に何を作りたいか決まっていなかったため、とても苦戦した。しかし、初心である多くの人を喜ばせることを中心に企業研究をしていった結果、池上通信株式会社を見つけた。そこでは、いつもテレビで見えるような映像を撮る放送用カメラ、それを皆様へお届けする映像システムの開発・製造を行っている。業務によっては、現場に技術士がいなくてできない仕事もあるそうだ。そのためJABEE認定はその近道であり、今後は期待していただいている。その気持ちに応えたいと、今は技術研修で開発設計の基礎となることを学んでいる。

将来は技術士となって、多くの人に貢献できる物を作っていけるよう、日々学んでいきたい。」

土木工学科

学生キャリア支援人材センターによる学生支援

「土木工学科学生キャリア支援人材センター」の意見交換会を5月13日に開催しました。この組織は、本学科学士の勉学や就職そしてキャリア教育などの支援活動にご協力いただいている学外学識者59名で構成されています。当日は、教職員も含めて49名が出席し、学科の近況、生産実習や就職の状況等についての幅広い報告や意見交換が活発に行われました。

この意見交換会に先立ち、「教育プログラム評価委員会」を開催しました。この委員会は、教育プログラムにおける教育改善活動を客観的に評価・点検する組織で、上記人材センターの5名と教員6名の計11名で構成されています。今回は、昨年度の



合同企業セミナーの開催状況
(株式会社IHIインフラ建設様撮影)

教育プログラムの点検結果、改善検討などに対する審議が行われ、PDCAサイクルの更なるスパイラルアップを図ることが確認されました。

さかのぼる4月4日(土)には、上記人材センターのご協力をいただき、3年生と4年生を対象として、「就職活動の在り方と職場で望まれる人物像」と題して小山裕史氏(戸田建設)と本間靖一氏(東京都)によるOB講演会を実施しました。土木界の第一線で活躍している先輩方の講演に学生は大変興味深く聞き入っていました。

以上のような学生キャリア支援人材センターのご支援、ならびに土木工学科主催の合同企業セミナーおよびセミナー参加企業との懇親会(5月23日)などにより、今年度の就職内定状況は例年以上に順調に推移しています。

日本リモートセンシング学会より論文奨励賞を受賞

測量学の朝香智仁専任講師が一般財団法人日本リモートセンシング学会において論文奨励賞を受賞しました。この賞は、新規性と独創性においてリモートセンシングの分野に有益な示唆を与える論文に賞を与えるものです。



応用分子化学科

学外オリエンテーションを実施

4月に新入生を対象とした学外オリエンテーションが実施されました。本年度はマザー牧場での飯盒炊爨(応用分子化学科恒例?)と東京電力のご理解を得て火力発電所の見学会を行いました。火力発電所では担当者から丁寧な説明を受け、大学で学ぶ材料科学や熱力学を先取りする形で、仕組みや工夫に触れることができました。将来、関連する分野を学ぶ際、今回の経験を活かしてより深い理解をしていただければと願っています。



学会発表での受賞報告

卒業研究に係る実験の一部を農水省生物資源研で行っていた荻野君(学部4年生)が第59回日本応用動物昆虫学会大会においてポスター賞を受賞しました。院生が中心の発表会で、学部4年生の荻野君が受賞したことは大変素晴らしいことです。

発表者: 荻野 拓海

題目: 「ナミヒメハナカメシの波長選好性」

また、本大学院応用分子化学専攻の大野君(修士2年)、北川君(修士2年)、前澤君(修士1年)が平成27年3月9、10日に開催された日本海水学会若手会第6回学生研究発表会において優秀賞を受賞しました。

発表者: 大野 真知嗣 / 題目: 「N₂ ファインバブルと貧溶媒の併用によるインドメタシンの晶析現象」

発表者: 北川 祥行 / 題目: 「金属-有機構造体のMTP反応への応用」

発表者: 前澤 祥太 / 題目: 「気-液界面晶析場を用いたグリシンの多形制御」

博士後期課程の諸崎君が

「日本学術振興会特別研究員-DC-2」に採択

将来の学術研究を担う優れた若手研究者を養成・確保することを目的として設立された「日本学術振興会特別研究員-DC-2」に生産工学研究科応用分子化学専攻博士後期課程3年の諸崎友人君が採用されました。

研究課題: 高周期典型元素に配位されたカルボンの系統的合成法と評価法の開発

建築工学科

新入生オリエンテーション

毎年、建築工学科では恒例行事として、新入生を対象に学生間ならびに学生と教員間の親睦を深めることを目的として、4月または5月に軽井沢の地に1泊2日のオリエンテーションを行っています。昨年度までは軽井沢の教会や別荘などの建物散策、



世界遺産に登録された富岡製糸場の見学のほか、カーリング体験といったなかなか経験できないメニューも実施してきました。

本年度は4月18(土)、19日(日)に学生と引率教員合わせて約250名が参加し、日本大学軽井沢研修所を拠点として研修所のグラウンド、テニ

スコートなどを活用したスポーツ対抗戦と軽井沢散策を通じて、一緒に体を動かし、汗を流して親睦を深めました。

スポーツ対抗戦はソフトボール、サッカー、テニス、卓球が行われ、学生同士だけではなく、先生方も交えて白熱した試合を繰り広げておりました。



軽井沢散策ではレンタサイクルを利用して、ショー記念礼拝堂、聖パウロカトリック教会、万平ホテル、千住博美術館、本学科の渡辺康教授が設計された喫茶店、1年生の設計課題に取り上げられている「小さな森の家」(設計: 吉村順三)など、各自が見たい建物を巡りました。

初日の夜にはユニット毎(1ユニット: 教員1~3名+学生11~15名の構成、全19ユニット)に初日の感想や2日目のスケジュール確認、学生生活全般の相談など自由に話し合うミーティングを行いました。

新1年生はオリエンテーションが、友達づくりの良いきっかけとなり、順調に大学生活のスタートを切ることが出来たようです。

マネジメント工学科

学外オリエンテーションや学生賞など

マネジメント工学科は、新入生の1年生189名、そして大学院生として博士前期課程7名、後期課程2名を迎えて新学期をスタートしました。4月11日から12日には、学外オリエンテーションとして、筑波のサイエンススクエア、地質標本館、高エネルギー加速器研究機構などを見学しました。まだ大学生活が始まったばかりで、地方から親元を離れて、一人暮らしを始めた学生も多い時期です。新しい大学生活への期待と共に、まだ友達もいない不安な状況でのオリエンテーションでは、同じ部屋になった学生同士で、友達になるには絶好の機会となります。1泊2日という短い期間でしたが、この時期に友達になった学生が、一生涯の友達になる事も多く、とても貴重で有意義な時間を過ごせたようです。

またここ数年、7月上旬から下旬にかけて台湾の中國科技大学との交流プログラムを実施しております。昨年は7月14



日から19日まで、18名の学生達が生産工学部に来て、マーケティングや生産システムなどの授業を受けたり、オープンキャンパスに参加したり、千葉県内の工場見学をしました。慣れない日本語での授業ですので、難しい講義がさらに難しく感じたようでした。そして今年の2015年4月からは、3名の学生が特別聴講生として当学科に1年間留学して、経営や管理技術を学んでおります。



さて、次は学生の研究活動報告となりますが、昨年2014年12月の生産工学部学術講演会にて、学部生の鈴木透也君と、大学院生のSALA-NGAM SARINYAさんが優秀学生発表賞を受賞しました。また、2015年3月には、経営情報学会の関西支部学生研究論文発表会にて、学部生の吉松寛道君が最優秀賞を受賞しました。

数理情報工学科

新入生 154 名が仲間に加わりました

今春、数理情報工学科には 154 名の新入生が新たな仲間として加わりました。4月1日に実施された開講式での特別講演は、数理情報工学科卒業生（当時の名称は数理工学科）で現在（株）東京技術計算コンサルタントの代表取締役の倉



川清志氏。今年の新入生の中でも特に数理情報工学科の学生は、倉川先輩の言葉の一つ一つが心に刻まれたことでしょう。そして、4月11日から1泊で教員と一緒に鬼怒川温泉に行ってきた学外オリエンテーション。



今年新たに取り入れた企画は“ぶちアドベンチャーゲーム”。温泉内の各所に設けられたチェックポイントをチームで巡るゲームで、途中にはマウンテンバイクがあり、足湯もありと、昨年度までのグループディスカッションに比べて、チームカアップにとっても効果があったようです。

数理情報工学科では、学生達の様子をホームページ上で沢山の写真とともに発信しています。こちらをご覧ください（<http://www.su.cit.nihon-u.ac.jp/>）。

創生デザイン学科

遠田敦助教が着任

4月1日付けで、遠田敦助教が着任されました。研究分野は、「住環境および人間行動に対するカジュアルモニタリングインフラの開発」、「マシンラーニングを用いた人間行動および住環境特性の抽出」、「スマートフォンなどを用いた個別配信型避難安全システムの研究開発」などで、今後の活躍が大いに期待されます。



中川一人助教海外派遣研究員としてパリに派遣

中川一人助教は、平成 26 年度海外派遣研究員（中期）としてフランス共和国・パリに派遣されました。（平成 27 年 3 月～平成 27 年 7 月を予定。）

堀江良典教授が定年退職されました

堀江良典教授は、平成 27 年 6 月 18 日をもって定年退職されました。これに先立つ平成 27 年 6 月 16 日には、



39 号館スプリングホールにおいて、「ヒト、ひと、人、人間」と題した最終講義が行われました。

堀江良典教授は昭和 44 年 4 月に日本大学生産工学部に着任されて以来、46 年間の長きにわたり、学生の教育・研究の指導に当たってこられました。国際人間工学会連合理事、日本人間工学会理事・関東支部長・国際協力委員長・総務担当、日本経営工学会関東支部長、産業保健人間工学会理事、プラントヒューマン・ファクター学会理事、ヒューマンインタフェース学会評議員などを務められました。また、習志野市環境審議委員や国土交通省、経済産業省の各種委員なども務められ、人間工学の分野で我が国のみならず国際的にも多大な貢献をされています。

環境安全工学科

教員、学生を受賞相次ぐ。新任教員、新入生を迎えてさらに教育研究活動が充実

2014 年 11 月に無機マテリアル学会第 129 回学術講演会で本学科の亀井助教が講演奨励賞を受賞しました。続いて 12 月には今村准教授が日本燃焼学会奨励賞を受賞しました。前年 4 月の今村准教授の日本航空宇宙学会技術賞の受賞、8 月の秋濱教授の自動車技術会技術部門貢献賞の受賞と合わせ、教員の研究活動や学会への貢献が認められての受賞が相



受賞者の喜びの様子

次いでいます。また 2014 年 12 月には、学部 4 年生の長谷川高平君（当時）が NRI 学生小論文コンテストにて奨励賞を受賞しました。40 号館が落成して 3 年目を迎え、教員、学生の活動もより充実したものとなってきました。

2015 年 4 月には、野中助教を新たに迎え、さらなる教育研究活動の充実を図っています。野中助教は放送大学においても講師をしておられるので、ご覧になられたことがある方もいるかもしれません。なお保坂准教授は海外派遣研究員としてシェフィールド大学で 3 月から 1 年間の予定で出張しています。

2014 年 3 月には無事 3 期生を送り出すことができました。卒業生は公務員試験、大学院入試へ再挑戦を志す者 2 名と諸事情により就職を希望しない者 2 名を除き 102 名全員が就職先（大学院進学者を含む）を確定し卒業式を迎えることができ、2 期生に引き続き 2 年連続で就職 100% を達成しました。これに加えて、環境安全工学科を卒業し、本学の機械工学専攻、土木工学専攻、応用分子化学専攻に進学していた 1 期生 13 名も大学院を無事修了することができました。

2015 年 4 月には、新たに新 1 年生 146 名を迎え、学外オリエンテーションとして、栃木県の奥日光に行ってきました。学科オリエンテーションや入念に準備したスポーツ大会など学科ニュースはホームページにも掲載しておりますので、ぜひ一度ご覧になってください。

TOPICS 生産工学部学生ものづくりプロジェクト

学生ものづくりプロジェクトは、学生が主体となり実際に何かをつくりだそうとする、生産工学部の独創的な学生学習プロジェクトです。

我々教員は、学生をサポートしものづくりを導くわけですが、同時にこの機会を ①現実にものをつくるプロセスを通して学ぶ PBL (Project Based Learning) の実践と捉え、②そのことで、キャンパス空間の質の向上に寄与しようと目論んでいます。

プロジェクトは「キャンパスサイン」で、キャンパスの建物の



位置や学科を案内するサインを計画します。実はこれは、2013 年度の先の学生ものづくりプロジェクトの成果「ものづくりプロジェクト提案書 2013」を継承し発展させようとしています。

実務のプロジェクトを意識して、キャンパスの調査、サインについての研究（事例採集や見学など）を経て、現在（6 月）はサインのありかたとデザインを具体的に検討しています。これからは、クライアントと見立てる大学との意思疎通や製作コストなど、マネジメントの要素も強く意識していかなければなりません。

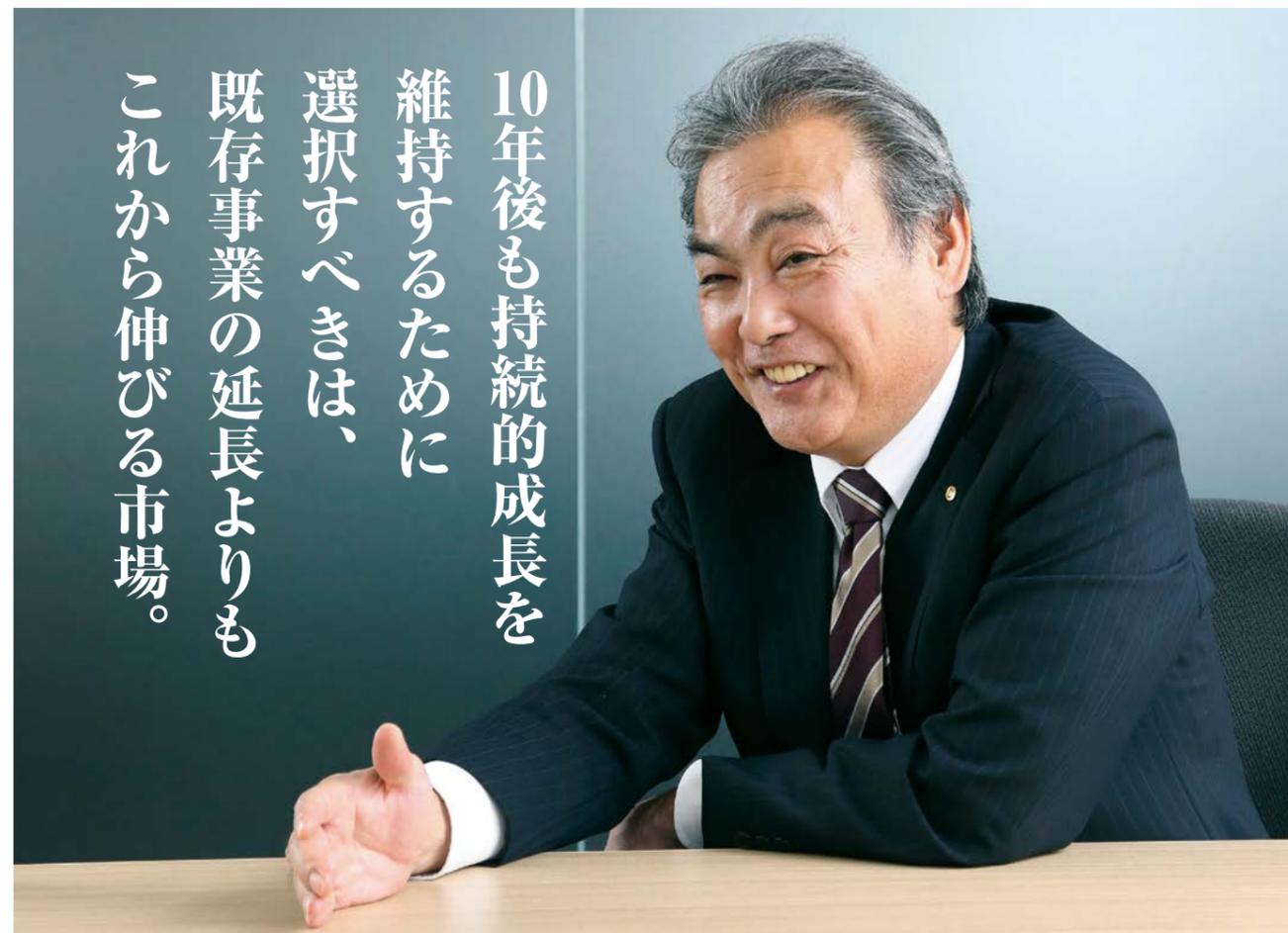
学生は、建築工学科学生（建築デザインコースと居住空間デザインコース）と創生デザイン学科学生が、学科を横断してデザイン混成チームをつくり自由な議論の場を形成しています。

指導は、彼らを普段から指導する渡辺康教授、私（篠崎健一准教授）（建築工学科）と木下哲人助教（創生デザイン学科）による、これも混成チームです。

実社会におけるこれまでの多様なデザインの経験にもとづき、つくりだすことの楽しさと、同時にそれに伴うつくることの責任について、教えるというよりは一緒に考えていきたいと思いがながらこのプロジェクトに取り組んでいます。

生産工学部は、学生が中心のキャンパスをめざし、教職員はもちろんのこと多くの方たちがさまざまな形で学生をバックアップしています。中でも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのがこのコー

ナーです。今回は、診断用薬、検査用機器、一般用医薬品および健康食品などの製造、仕入、販売を行う日水製薬株式会社社長の小野徳哉さんにご登場いただきました。



10年後も持続的成長を維持するためには、選択すべきは、既存事業の延長よりもこれから伸びる市場。

日水製薬株式会社 代表取締役社長執行役員 小野 徳哉 氏

■いろいろな人と知り合いたくて日本で一番大きな大学に。

高校は岩手県の県立高校でした。東北の国立大学も考えましたが、東京の学生生活にあこがれ(笑)、また、いろいろな人と知り合いたいという思いがありましたので、当時日本で一番大きい大学で、日本中から学生が集まる日大にしました。

いずれ実家の家業を継がなければと思っていましたし、その後の人生を岩手で過ごすなら、大学ぐらいは東北以外の違うところに行きたいという気持ちでした。

高校が理数科で、周りはほとんどが医学部や薬学部に進学するような感じでした。わたしは化学・生物系を志望していましたので、工業化学科に入りました。

■冬はスキー三昧。夏はバイクで一人旅。もっと勉強しておけばよかった!

大学には、実習、実験の日はよく行って

いましたが、1、2年生の授業はほとんどが高校の復習みたいな感じだったので、正直「こんなもんか」と思いました。後々、その時期にもう少し勉強しておけばよかったと後悔しましたが(笑)。

高校のときから趣味でスキーをやっていましたので、1年から3年までは、冬になるとスキー場でインストラクターのアルバイト。年間100日ぐらいは滑っていたと思います。とにかく、冬は試験の日だけ大学に行くという感じで、スキーばかりの日々(笑)。一方、夏はバイクで気ままな一人旅。そんな学生時代でした。

■楽しかったテネシー州立大学夏季留学。仕事の厳しさを学んだ生産実習。

学生時代の思い出で特に印象に残っていることが2つあります。1つは1年生のときの夏季留学。米・テネシー州立大学で7、8、9月の3カ月間、英語の授業を受けました。

日大の学生以外にも南米、ヨーロッパ、中国、台湾など、いろいろな国から大勢の学生が来ていて、校内にある寮には数百人が泊まっていた。そんな中で、朝からアメリカ人の先生に発音とか会話とか教えていただくわけです。休みの日になると、先生方にカヤックの川下りに連れていかれたり、夜どおし車で走ってジャズやロックのコンサートを聞きに行ったり。本当に楽しかったですね。

もう1つは3年生のときの生産実習です。東京湾横断道路が周辺の環境に及ぼす影響を調べるアセスメント調査や霞ヶ浦の流量調査、都内の大気調査などを実習させてもらいました。24時間交代の調査などもあって体力的にきつかったのですが、楽しい思い出です。調査で海に出るときなど、厳格な規則があって、それを破るとたとえアルバイトであっても、きつく注意されます。東京湾の流量調査のときはアルバイト

【PROFILE】

小野徳哉(おの・とくや) 岩手県出身、53歳。昭和61年3月日本大学生産工学部工業化学科卒業。同年4月に日水製薬(株)入社。営業部門で実績を残し、平成22年6月には執行役員診断薬マーケティング部長に就任。その後、執行役員事業企画推進室長、取締役執行役員事業企画推進室長、取締役執行役員営業企画推進部担当兼事業企画推進室長、取締役専務執行役員事業企画推進室長、代表取締役専務執行役員営業・生産・研究部門管掌を歴任。平成26年6月に代表取締役社長執行役員に就任して現在に至る。夫人と2男1女の5人家族で、腕前はプロ級のスキーをはじめ、スノーボード、セーリング、ハイキング、芸術鑑賞と多趣味だが、多忙ゆえ、現在はたまにゴルフに行く程度とか。



の学生もいましたが、頭ごなしに怒られると、彼らはけんかして辞めちゃうんです。でも、こっちは違います。怒られたり、体力的にきつても実習で来てますから、簡単に辞めて帰るわけにはいきません。最初は数十人いた学生が、終わったときには半分ぐらいに減っていました。

生産実習がストレートに将来の仕事につながったわけではありませんが、この実習を通して、アルバイトなどでは得られない仕事の厳しさを学びました。貴重な体験だったと思います。

■就職して変わったのは、朝の早さと、人に頭を下げるようになったこと。

卒業研究のテーマは「Latexへのアミノ酸の吸着」。当時都立大からいらっしゃった北村教授の北村・新井研に所属して、研究していました。北村先生のご紹介もあって、現在の会社に入社しましたので、その研究が、今の仕事につながったということになります。

就職して変わったのは、まず朝が早いこと(笑)。もう1つは、人に頭を下げなきゃいけないことでした。

入社当初から営業に配属されました。あるとき営業先で理不尽な対応を受け、「あそこにはもう絶対に行かない」と思うようなことがありました。そういう態度が上司に見えたらしく、上司がもう一度同行してくれました。帰りに、その上司が、「おれも頭にきた」って怒っているんです。「ふだんと変わりなく挨拶してたじゃないですか」というと、「あの人の頭に下げたんじゃない。あの人の後ろの壁に1万円札が貼ってあると思って、それに頭を下げたんだ。要はあの人が物を買ってもらえばいいんだ」と言ってくれました。

自分と同じように感じてくれて、そのうえで「割り切って考えればいいんだよ」と助言してもらったことで一気に楽になりました。今となっては懐かしい入社当時の思

い出ですね。

■役職が上がれば変化は大きい。だからこそ変わらないものも大事。

ずっと営業畑を歩んできて、営業職のときは、今も先月と同じ仕事、というような思いが、当然ありました。ところが平成22年に役員になり、その後役職が上がれば上ほど同じ仕事はなくなっていきます。同じような仕事でも、提携する相手が違う。競争する相手が違う。要するに、毎日、同じ日がないんです。特に社長になってみると、なおさら去年と同じ年はないし、昨日と同じ日は1日たりともありません。

いつも新しい刺激があるので飽きないといえば飽きませんが、変化が大きいだけに、逆に変わらないものもしっかり持たなきゃいけない。例えば生活のスタイルを変えないこと。起床の時間、朝新聞を読む時間、出社する時間など日々のリズムです。同時に、納得できないことはやらない。それともう1つ、毎日お酒を飲むこと(笑)。家に帰ってお酒を飲んで、今日のことを忘れる。これも大事なことです。

■10年後も持続的成長するために、新しい事業創出がわたしの仕事です。

漠然とですが、10年は社長をやりたいと思っています。それは、会社がこうなっていきたいと思いついて描いていることがあって、5年でこれぐらい、その倍の10年ならこれぐらいかな、という大まかな計算があるからです。

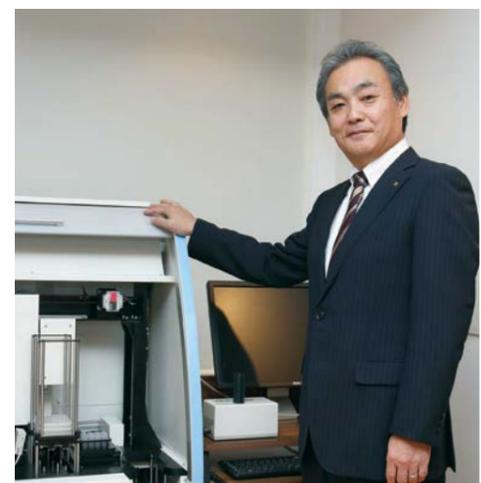
我が社は、今年4月で創業80周年を迎えました。会社のキャッチフレーズは「持続的成長をする企業」です。これは10年たっても、そのままだと思います。ただ、それは何も変化しないことを意味するわけではありません。

基本的に我が社は財務状況がすごくいいんです。でも、それはずっと続くわけでは

ありません。製造販売業なので、新しい製品を開発して出していかなければいけない。そのために研究開発もやっていかなければいけない。そして、その方向は、既存事業の延長よりは、市場全体が伸びているところ、そしてこれから伸びるところ。例えば、再生医療などでしょうね。

そういうふうに、我々の会社はこの方向に向かうよ、こういう事業をやりたいんだよ、新しい事業を創っていくのがわたしの仕事だと思います。新しい事業を創出してこそ、スクラップ・アンド・ビルドで、事業の選択ができるんだと思います。そして選択した事業に集中する。

それを考えると、10年後も「持続的成長をする企業」であるためには、大



きな変革が起きている可能性もあるわけですね。我が社の製品は、世界中に輸出されていますが、日本中、世界中にまだ我々の存在を知らない方々が大勢います。その方々に我々を知っていただき、自社製品をご愛用いただくことを夢見ています。10年後が楽しみです。

【取材後記】

長時間お話を伺ったが、そのかなりの時間が家族、とりわけ3人のお子さんの話題でした。長男、次女の小学校時代のサッカーのこと、末っ子の長女のバレエの発表会のこと、家族そろって出かけたスキーのこと。どれも自然体でとても好感が持てました。居酒屋での飲み会にも、よく社員からの声がかかるとか。この巧まざる距離感、天性のものでしょうか。新しいタイプの社長像、とは言い過ぎでしょうか。

『日本大学生産工学部とミシシッピ州立大学との教育・研究交流に関する覚書』を調印いたしました。



平成 27 年 6 月 23 日 (火) に米国ミシシッピ州スタークビルに所在するミシシッピ州立大学 (MSU) で、日本大学生産工学部とミシシッピ州立大学との教育及び研究に関する覚書 (MOU) の調印式が行われ、ミシシッピ州立大学と教育・研究交流に関する覚書を調印いたしました。

今後、大学間の様々な交流を通じて、両大学がより発展することが期待されます。



平成 26 年度学位取得者一覧

次の方々が平成 26 年度に博士の学位を取得されました。
今後のご活躍を期待しております。

課程修了によるもの

専攻	学位	氏名	論文題目	学位授与大学	授与年月日
機械工学専攻	博士 (工学)	河野 亮	航空機部材の成形及び自重変形解析に関する研究	日本大学	平成 27 年 3 月 25 日
機械工学専攻	博士 (工学)	長見 茂	インフュージョン成形法による GFRP 構造の特性評価と数値計算によるシミュレーションに関する研究	日本大学	平成 27 年 3 月 25 日
土木工学専攻	博士 (工学)	菊池 祥一	天然石を用いた軽交通のブロック系舗装への適用に関する研究	日本大学	平成 27 年 3 月 25 日
建築工学専攻	博士 (工学)	野中英	簡易透気試験による構造体コンクリートの品質評価方法に関する研究	日本大学	平成 27 年 3 月 25 日
数理情報工学専攻	博士 (工学)	山崎 紘史	スキャンテストにおけるコスト及び消費電力削減のためのテスト生成法に関する研究	日本大学	平成 27 年 3 月 25 日

論文提出によるもの

専攻	学位	氏名	論文題目	学位授与大学	授与年月日
土木工学専攻	博士 (工学)	保坂 成司	コンクリート製下水管腐食の現状と耐硫酸性向上のためのフッ化物混合セメント硬化体に関する研究	日本大学	平成 26 年 12 月 1 日

「生産工学部創設 60 周年記念事業募金」寄付者ご芳名

創設 60 周年記念事業募金にご賛同頂き心から感謝申し上げます。
平成 26 年 6 月から平成 27 年 5 月までにご寄付を頂戴した皆様のご芳名を記載させていただきました。
なお、学部広報誌等へのご芳名の掲載を希望されていない方は、記載されておりません。

在学生父母

秋山 昌紀	新井 千鶴	稲田 敏紀	岩崎 信彦	大石 幸弘
大川 三敏	大越 輝夫	小柏 学	岡部 洋一	岡本 栄司
尾澤 茂	加藤 克彦	鹿野 淳一	神長 正樹	神山 治之
近藤 利行	三部 喜久雄	椎名 操	島村 肇	進藤 賢一
菅野 博	杉本 英介	杉山 廣史	鈴木 一男	鈴木 敏孝
関 清博	高岡 英機	高藤 亨仁	田島 隆志	田隅 朗
田中 信克	ティミルシナオムクリシナ	戸川 達也	鳥海 浩	中島 真人
中村 信一	成田 純一	萩原 康宏	速水 善憲	樋口 ゆかり
平島 賢二郎	平野 信幸	福井 自由	藤山 伴子	保澤 宏行
松川 隆	松本 孝	三澤 智	村田 直昭	森川 朝夫
矢島 誠勇	山田 正史	山田 光夫	山村 務	吉岡 光徳
義見 アイ子	米山 忠			

校友

太田 克則	小野 信雄	棚橋 智史	豊田 悟	橋本 真孝
渡辺 一人				

教職員 (退職者を含む)

秋濱 一弘	朝本 紘充	荒巻 光利	有賀 千晶	石橋 基範
五十部 誠一郎	内田 康之	内堀 朝子	大江 秋津	大木 富美子
大室 夏美	岡本 孝明	落合 実	片山 光徳	金塚 茂
北島 雄一郎	木下 誠也	木村 悠二	久保田 正広	黒岩 孝
小山 潔	近藤 政英	逆井 彰	坂田 憲泰	佐藤 敏幸
佐藤 友彦	清水 明美	清水 正一	菅沼 祐介	杉村 俊郎
高橋 浩人	高谷 明日香	武井 正	武村 武	鳥居塚 崇
永井 敦	西尾 伸也	芳賀 弘光	藤田 育嗣	保科 貴亮
前田 将克	松井 勇	松本 真和	三木 久美子	水野 僚子
八代 妃呂美	山田 和典	山中 厚利	渡辺 陽子	

企業・団体

(株)エイアンドティ建築研究所	(株)映像システム	(株)岡村製作所	(株)桑田建築設計事務所
(有)近藤商店	(株)シスコム・ワン	(株)ジャパン・エコ・トラスト	(株)青孔社
千葉県西部個人タクシー協同組合	(株)東工	習志野タクシー(株)	西松建設(株)
(株)フジキョウ	不二装備工業(株)		

(敬称略、五十音順)

新任 教員 紹介

電気電子工学科



准教授
いしぐり しんいち
石栗 慎一

新潟大学大学院博士後期課程を修了した後、日本学術振興会特別研究員を経て、高専機構 国立福井高専に助教・講師として勤務してきました。

本年4月より電気電子工学科の准教授として着任いたしました。研究テーマは高温超伝導および新型超伝導を利用したエネルギーに関する基礎研究を行っています。

本学部において、社会に大きく貢献できるような技術者または研究者の育成に励んでいこうと存じます。よろしくお願いいたします。

電気電子工学科



准教授
せき ともひろ
関 智弘

本年度4月に着任しました。前職は日本電信電話株式会社、未来ねっと研究所において主に無線LAN/PAN、衛星通信システムのアンテナやパッケージモジュールの研究・開発に携わってきました。

研究テーマとしては、無線システムでは必ず必要となるアンテナ技術をベースに、アンテナを中心に考えたからこそ実現できる新しいシステム・技術に関する内容を行っていきたく考えております。また、研究・開発を進める上で重要な発案力を育成するため、できる限り皆さんと一緒に検討する時間を作っていけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

土木工学科



教授
すぎむら としろう
杉村 俊郎

平成26年10月より土木工学科に教授として着任いたしました杉村です。

前職は(財)リモート・センシング技術センターで、37年間勤務しておりました。

研究分野はリモートセンシング、宇宙から観測した地球の情報を解析し、応用する技術の研究及び開発です。

今後も学生の皆さんと、グローバルな視点から地球の姿を見つめ、技術の発展に努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

土木工学科



教授
にしお しんや
西尾 伸也

平成27年3月に土木工学科・教授として着任いたしました。前職では清水建設(株)技術研究所に勤務しておりました。専門は地盤工学で、地盤物性計測や地盤の変形予測・安定性評価に取り組んでいます。

建設会社での技術開発、海外プロジェクト等の実務経験を生かした教育と研究を旨とし、学生の皆さんが「自主創造」の気風に満ちグローバルな視野を持った技術者となるお手伝いができればと考えております。よろしくお願いいたします。

土木工学科



教授
もりた ひろあき
森田 弘昭

3月に下水道グローバルセンター(GCUS)を退職し、4月に生産工学部土木工学科に着任いたしました。

GCUSでは、ベトナムの地下インフラ整備に取り組んできましたが、その前は31年間、国土交通省や環境省、岡山県庁、熊本市役所などにおいて水質保全や下水道整備、まちづくり、海外展開に携わっていました。計画策定や予算編成、プロジェクト立ち上げなどの経験を踏まえて社会に貢献する機動力のある実践的な教育・研究に努めたいと考えております。よろしくお願いいたします。

建築工学科



助教
こじま ようこ
小島 陽子

本年4月に着任し、主に建築史の講義を担当しております。専門は、東南アジア建築史で、特に学部4年時に魅せられた世界遺産アンコール・ワット、その大伽藍造営に至るまでの往時の技術者の試行錯誤の過程を描き出すことを試みています。

「振り返れば明日がみえる」をモットーに、学生の皆様と、アジアを中心とした建築の豊かさについて考え、これからの建築について模索していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

建築工学科



助教
やまぎし てるき
山岸 輝樹

公共集合住宅を専門とする設計事務所に勤めた後、日本建築学会特別研究員、日本大学生産工学部研究員、千葉大学特任助教を経て、本年4月より着任しました。

専門は建築計画学、とくに地域社会の再生を目指した住宅地・地域施設の再編に関する研究に取り組んでいます。

少子化・高齢化・人口減少などの難問に、どうしても目が奪われがちですが、より魅力的な地域社会の実現に向けて、学生の皆さんと一緒に未来志向で取り組みたいと思います。よろしくお願いいたします。

マネジメント工学科



教授
ひらた みつこ
平田 光子

自動車メーカーでの海外オペレーション、外資系経営コンサルタント、他大学教員を経て、本年4月に本学他研究科より転籍いたしました。専門は経営学ですが、とりわけ組織論、リーダーシップ論、経営者論分野の研究を進めてまいりました。また、行政とともに新産業創出の支援などの産学連携活動も行っております。

学生の皆様一人ひとりが社会で輝くように、実践力・思考力・構想力の醸成を目指した教育に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

数理情報工学科



助教
いとう たく
伊東 拓

博士号を取得してから、2つの大学で修行した後、2015年4月より数理情報工学科に着任いたしました。コンピュータをフルに使った研究を、数値解析・コンピュータグラフィックスの分野でしており、数年前よりスーパーコンピュータを使って大規模な計算も始めました。

学生の皆様とは、楽しみながら日々精進して研究を進めていきたいと思っております。また、学業以外のことでも、例えばテニスなど一緒にできればと思っております。よろしくお願いいたします。

環境安全工学科



助教
のなか たかし
野中 崇志

前職の株式会社パスコでは、主にドイツ航空宇宙センターが開発した最新鋭の合成開口レーダ衛星 TerraSAR-X の運用、および応用分野の研究開発に従事しました。

専門は衛星リモートセンシングの環境・防災分野等への応用、および付加価値プロダクトの開発です。

学生に自ら学び、分かる面白さを伝えるとともに、国際的な競争が激化しつつある宇宙分野を担う人材の育成に寄与できるよう尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

New Faculty Members

創生デザイン学科



助教
えんた あつし
遠田 敦

「人間の行動をデザインする」をテーマに、平時では居住者の動作や生活習慣、非常時には避難行動や心理について研究するとともに、それらをデータとして取得するための機器の開発をオープンソースハードウェアを使った方法で取り組んで参りました。

これまでの取り組みを進展させつつ、一方で学生のみならず一般社会と研究成果を共有してゆく方法にも焦点を当てながら教育・研究を推進して参ります。

教養・基礎科学系



助手
もり けんたろう
森 健太郎

本年4月より教養・基礎科学系の助手として着任いたしました。日本大学に入学以来、学部、大学院前期・後期課程、その後P.D.としての2年間も日本大学で過ごし、すでに11年間、日本大学にはお世話になっております。

専門は材料、特に無機材料を母体とした機能性材料の開発を目指しております。授業や実験では、これまで自分が感じてきた化学の楽しさ・面白さを、少しでも学生に感じてもらい、そこから学ぶことの楽しさを感じてもらえたらと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

教養・基礎科学系



助手
やまぎし ひろし
山崎 紘史

平成27年3月に本学生産工学研究科数理情報工学専攻にて博士後期課程を修了し、4月より教養・基礎科学系にて助手として赴任いたしました。

専門は、携帯電話や自動車などのデジタル製品に搭載されている、半導体のテストに関する研究をしています。

本学で学んだ知識と経験を活かして、教育・研究活動に取り組んでまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

第8回 風力発電コンペ

生産工学部では今年度も、「ものづくり」の素養とデザイン・アイデアに富んだ環境エネルギー機器の性能を競う「第8回風力発電コンペ WINCOM 2015」を11月に開催します。

中・高校生をはじめ、大学生・社会人のグループ、個人が独自の発想で風力発電機を作り、「ものづくり」の楽しさを味わうものです。皆さんのすばらしいアイデア、作品を募集しています。

開催日：平成27年11月1日(日)

会場：日本大学生産工学部津田沼校舎37号館8階

エントリー期間：7月13日(月)～9月18日(金)

最大50チームの参加を募集しています！

応募要項：以下のURLよりご確認ください。

<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/wincom/>

主催：日本大学生産工学部

後援：日本大学生産工学部校友会、日本風力エネルギー学会、日本機械学会関東支部千葉ブロック、千葉県教育委員会

お問合せ：日本大学生産工学部

第8回風力発電コンペ WINCOM2015 事務局

FAX：047-474-2461

E-mail: cit.wincom@nihon-u.ac.jp

WINCOM2015

開催日：平成27年11月1日(日)

主催：日本大学生産工学部
後援：日本大学生産工学部校友会、日本風力エネルギー学会、日本機械学会関東支部千葉ブロック、千葉県教育委員会

お問合せ：日本大学生産工学部
第8回風力発電コンペ WINCOM2015 事務局
FAX：047-474-2461
E-mail: cit.wincom@nihon-u.ac.jp

応募要項・実施要項は WINCOM 2015 のHPをご覧ください。

オープンキャンパス
風力発電コンペの紹介・説明を行います。
日時：平成27年7月19日(日)、8月1日(土)、8月3日(日)
場所：日本大学生産工学部 津田沼校舎37号館1階 未来工房

コンペ会場入場には特に事前登録など不要ですので、直接会場においていただきご声援をお願いいたします。

実初イベント 新入生歓迎パーティ開催

平成27年4月7日(火) 津田沼キャンパス体育館において、新入生歓迎パーティが開催されました。

開講式を終えてまだ数日、連日のガイダンスで緊張するばかりの1年生に、まず、学部に関心を持ってもらおうと企画されています。また、学科を超えた学生が一堂に会する貴重な機会でもあります。1年生の参加者は、1125人。体育館からあふれんばかりの大盛況の中、大坂教養・基礎科学系主任の挨拶で始まりました。サークル紹介の時には、大久保フォーク村と軽音楽部の演奏が彩りを添え、気楽な雰囲気のパーティでした。はじめて会った人とも、話はずんだのではないのでしょうか。



平成27年度行事予定(後期)

行事	2~4年次：津田沼校舎	1年次：実初校舎	大学院	備考
A O 入学試験	9月12日(土)、13日(日)			
後期ガイダンス	9月17日(木)※応用分子化学科1・2・3年のみ9/16(水)、17(木)		9月17日(木)	
後期授業開始	9月18日(金)			
祝祭日通常授業日(後期)	9月21日(月・祝)、23日(水・祝)、10月12日(月・祝)、11月23日(月・祝)			
卒業式・修了式・学位記伝達式(9月)	9月24日(木)		9月24日(木)	
父母懇談会(秋季)	9月26日(土) 津田沼校舎			10月17日(土) 地方別実施
創立記念日の休日	10月3日(土)、記念日は10月4日(日)			
編入学試験(2年次・3年次)	10月10日(土)			
外国人留学生入学試験(第1期)	10月10日(土)			
帰国生入学試験	10月10日(土)			
校友子女入学試験	10月10日(土)			
学部祭(桜泉祭)	10月31日(土)、11月1日(日)			10/30(金)準備日・11/2(月)片付日
オープンラボ	10月31日(土)			
風力発電コンペ(WINCOM2015)	11月1日(日)			
指定校制推薦入学試験	11月14日(土)			
提携校推薦入学試験	11月14日(土)			
保健体育審議会推薦入学試験	11月14日(土)			
トップアスリート推薦入学試験	11月14日(土)			
付属高等学校等推薦入学試験	11月15日(日)			
博士論文提出期日			11月20日(金)	
一般入試対策講座	11月29日(日)			
学術講演会	12月5日(土)			
公募制推薦入学試験	12月12日(土)			
冬季休業	12月24日(木)～1月8日(金)			
後期授業終了	1月29日(金)			
補講	土曜日適宜実施			
大学入試センター試験(C方式)	1月16日(土)、17日(日)			
修士論文概要(初稿)提出期日			1月21日(木)	
一般入学試験	N1方式	2月1日(月)		
	A1方式	2月2日(火)		
	A2方式	2月9日(火)		
	A3方式	2月19日(金)		
後期追試験	2月10日(水)、12日(金)			
修士論文提出期日			2月22日(月)	
転科試験(2年次)	3月1日(火)			
外国人留学生入学試験(第2期)	3月5日(土)			
大学院入学試験(第2期)	3月5日(土)			
卒業式・修了式・学位記伝達式	3月25日(金)		3月25日(金)	日本武道館

個人情報の取扱い告知文

入学時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課

サポート施設



ゴルフ練習場



トレーニングルーム



屋内プール



談話スペース (39号館)



運動場



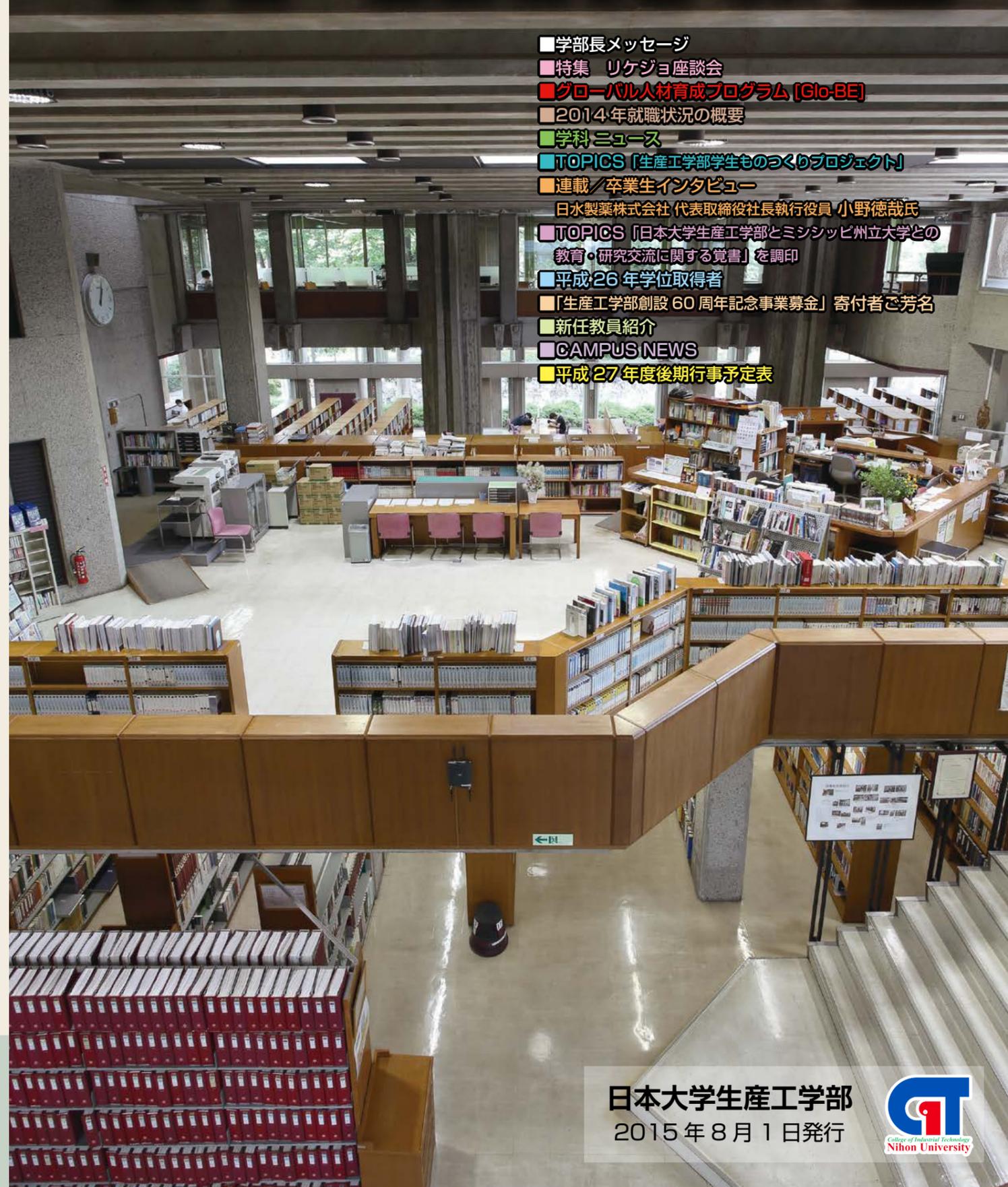
図書館 (博士・修士論文蔵書室)

学生生活の幅を豊かに広げる目的で作られている施設があります。「知のアーカイブズ」としての図書館、スポーツ大会やサッカー等に利用される広い運動場の他、ゴルフ練習場、屋内温水プールやトレーニングルーム、そして校舎内談話スペース。
知と共に心技体の輝きを側面からサポートする施設です。

SPRING

No. 105

- 学部長メッセージ
- 特集 リケジョ座談会
- グローバル人材育成プログラム [Glo-BE]
- 2014年就職状況の概要
- 学科ニュース
- TOPICS 「生産工学部学生ものづくりプロジェクト」
- 連載/卒業生インタビュー
日水製薬株式会社 代表取締役社長執行役員 小野徳哉氏
- TOPICS 「日本大学生産工学部とミシシッピ州立大学との教育・研究交流に関する覚書」を調印
- 平成26年学位取得者
- 「生産工学部創設 60周年記念事業募金」寄付者ご芳名
- 新任教員紹介
- CAMPUS NEWS
- 平成27年度後期行事予定表



スプリング
SPRING No.105
(日本大学生産工学部だより)
平成27年8月1日発行
編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記へお願いします。
〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課
電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432
E-mail : cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp
<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/>

日本大学生産工学部
2015年8月1日発行

